

Convegno *I Bronzi di Riace: Iconografia e Ricerche Sperimentali*

研究集会 リアーチェのブロンズ——図像解釈と再現研究

「リアーチェ」研究で知られる地元メッシーナ大学のカストリツィオ教授とともに、日伊両グループの最近の研究をまとめて発表する研究集会「リアーチェのブロンズ——図像解釈と再現研究」(Convegno *I Bronzi di Riace: Iconografia e Ricerche Sperimentali*) をメッシーナ大学で開催する運びとなりました。

2016/11/10 (木)

9:00-13:00 研究発表 メッシーナ大学

昼食、トラゲットで対岸に移動

17:00-19:00 議論 レッジョ・カラブリア国立考古博物館ブロンズの間

参加者・聴講学生のほぼ全員が「リアーチェ」の現物を見たことがあるという環境の中で「リアーチェ」についての研究成果を発表し、その後博物館で現物を前に議論し合うという、稀有な機会になります。

日本側3名は、主として制作技術と科学的分析について5本発表します。羽田康一（東京藝術大学）、松本隆、黒川弘毅（武蔵野美術大学）。イタリア側4名は、主として図像解釈について4本です。Daniele Castrizio, Mariangela Puglisi, Elena Caliri, Grazia Salamone (Dipartimento di Civiltà Antiche e Moderne, Università degli Studi di Messina). 標題は仮題を含みます。

- Ricostruzione del modello di partenza dei Bronzi di Riace (Matsumoto/jp+Hada/it)
- Ricostruzione sperimentale di saldatura in forma ovale del piede destro di Bronzo A di Riace (Matsumoto/jp+Hada/it)
- Analisi isotopa di piombo sui tenoni dei Bronzi di Riace (Hada/it-ing)
- Osservazioni endoscopiche al terzo restauro dei Bronzi di Riace (Kurokawa/ing)
- Storia antica di colore dei Bronzi di Riace (Hada/it)
- Iconografia degli eroi antichi (Puglisi/it)
- Il metodo “Bronzi di Riace” (Castrizio/it)
- Personificazioni delle poleis (Salamone/it)
- L’arte greca come bottino di guerra (Caliri/it)

「リアーチェのブロンズ」の元原型の制作 (松本・羽田)

「リアーチェのブロンズA」右足に適用された楕円形鑄掛け熔接の再現制作 (松本・羽田)

「リアーチェのブロンズ」足柄の鉛同位体計測 (羽田)

「リアーチェのブロンズ」第三次修復における内視鏡観察 (黒川)

「リアーチェのブロンズ」の色彩の古代史 (羽田)

古代英雄の図像学 (プーリズィ)

「リアーチェのブロンズ」の方法 (カストリツィオ)

ポリスの擬人表現 (サラモーネ)

戦利品としてのギリシア美術 (カリーリ)

私たちの発表はすでに日本語で発表したものの改訂版です（cf. 『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』7-10, 2013-2016）。最新の成果は「リアーチェA」の右足に適用された楕円形鑄掛け熔接の再現実験で、これは世界初の試みです。引き続き「リアーチェのブロンズ」がどのように作られたかを追究し、数年後、第一次利用（前5世紀）と第二次利用（前1～紀元1世紀）の復元ブロンズ像と、塑造原型から蠟原型、鑄造坑、鑄型、鑄込み、熔接、仕上げ、基台への据え付け、保存処置に至る全工程を示す作品を展示する展覧会を、レッジョ・カラブリア国立考古博物館で開くことが決まっています。

「リアーチェ」の解釈については、アルゴスの「テーバイ攻めの七将」神話と結びつける解釈が主流で、現在モレーノ説（Paolo Moreno: A=Tydeus, B=Amphiaraos）が定説となっていますが、カストリツィオ説（Daniele Castrizio: A=Polyneikes, B=Eteokles, 失われた C=Euryganeia）にも支持が広がっているように見受けられます。ABとも鑄造土はアルゴスの土という最新の分析結果（Jones et al. 2016）は、これらの解釈を補強したように受け止められています。

* 研究集会に先立ち、11/5（土）、羽田のこれまで20年をかけたギリシアブロンズ研究、特に「リアーチェ」研究に対し、レッジョ・カラブリアのアナクシラーオス文化協会（Associazione Culturale Anassilaos）からアナクシラーオス賞が授与されます。アナクシラーオス（Anaxilaos）は前5世紀第1四半期のレーギオン（Rhegion=Reggio）のテュランノス（僭主）で、レーギオン出身彫刻家ピュータゴラスと同時代。紀元前5世紀ギリシアと直接繋がれる感じがあります。

* 本研究集会は日本学術振興会科学研究費研究課題「レッジョ・カラブリア国立博物館所蔵大型ブロンズ彫刻および断片群の日伊共同研究」（課題番号23320045、基盤B一般、2011-2013年度、研究代表者／羽田康一）＋「古代ギリシアのブロンズ鑄造技術——現物調査と再現制作を中心とする国際共同研究」（課題番号16H03381、基盤B一般、2016-2018年度、研究代表者／同）の成果の一部です。